

2014夏休み企画展「文化財に親しもう！」ワークシート

学校名() 年 組

紀州藩と紀州徳川家

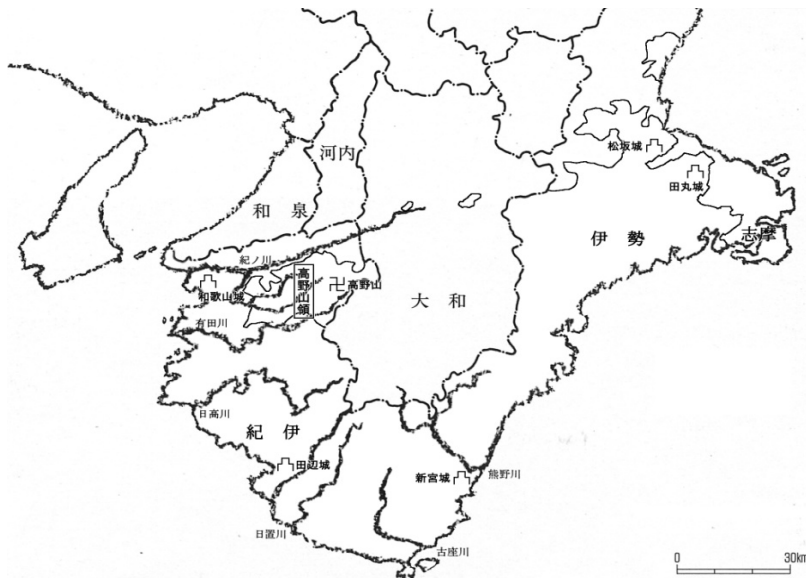
番 氏名

教科書などでは...

1603年、徳川家康は征夷大將軍に任命されて江戸幕府を開きました。家康は、軍事・交通の要地には、徳川氏の一族である親藩や、古くからの家臣である譜代大名を配置し、新たに從った外様大名は、九州・東北などに配置しました。三代將軍家光の頃には、参勤交代の制度を整え、大名は1年おきに江戸と領地を行き来し、妻子は江戸で暮らしました。

和歌山県では...

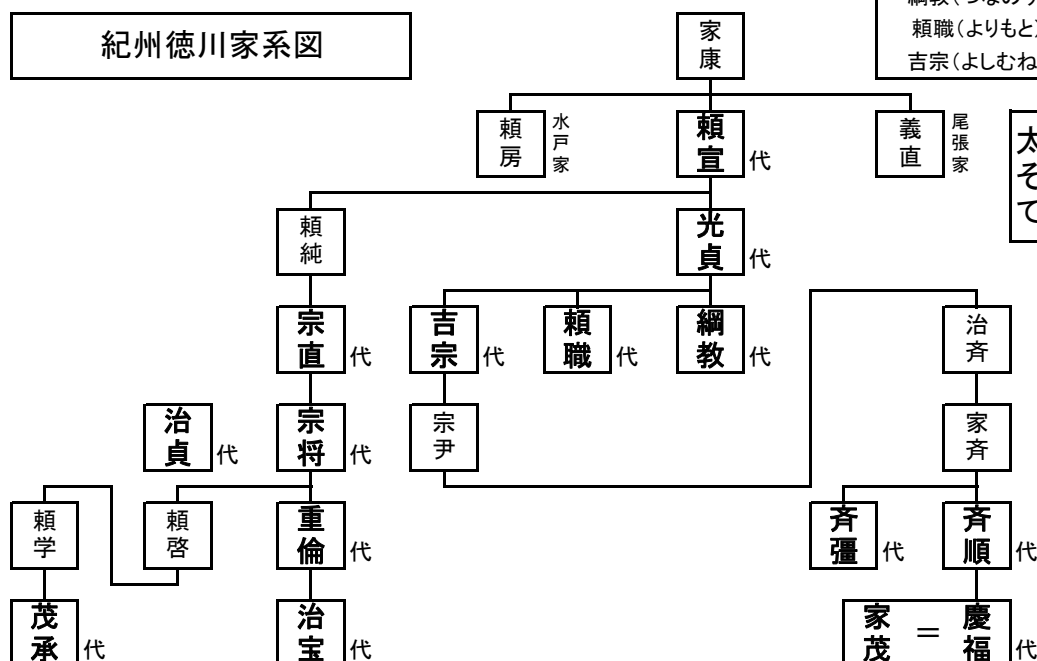
紀州には、浅野氏二代の後を受けて、家康の十男徳川頼宣(よりのぶ)が入国し、55万5千石を領した。紀州徳川家は、將軍家に次ぐ高い家格を与えられ、やがて尾張・水戸とともに「御三家」と呼ばれるようになった。



紀州藩の領地に色を塗ってみよう！

紀州藩の参勤交代のルート
を、赤ペンで地図の中に書き入れてみよう！
3通りあるよ。

紀州徳川家系図



紀州徳川家藩主の名前の読み方

頼宣(よりのぶ)	宗直(むねなお)	斉順(なりゆき)
光貞(みつさだ)	宗将(むねのぶ)	斉彊(なりかつ)
綱教(つなのり)	重倫(しげのり)	慶福(よしとみ)
頼職(よりもと)	治貞(はるさだ)	(家茂(いえもち))
吉宗(よしむね)	治宝(はるとみ)	茂承(もちつぐ)

太字の名前は歴代の藩主です。
それぞれ何代目か、数字を入れて
みましょう！

將軍になった藩主が二人いま
す。誰と誰でしょう？

()
()

紀州の風土と生産

紀州の産業

高く深い山、半島を囲む黒潮の海。紀州の人々の生産活動は、こうした自然と格闘して、その恵みを引き出すことでした。人々の日々のたゆまぬ努力により、生産技術は少しずつ改良され、分業も進んでいきました。江戸時代は、そうした人々の努力の成果が、地場産業の発展という形で実を結んだ時代でした。そこで生み出された産業技術は全国各地に普及し、永く伝えられていきました。

江戸時代の紀州の産業を調べてみよう

有田郡		温暖な気候、山がちな地形を活かす。
湯浅村		良質の水、藩の保護
熊野地方		豊かな山林
加太		優れた漁場、関東にまで進出
太地		九州や土佐にもその技術を伝えた。

紀州藩の文芸

紀州藩は、御三家の一つとして、それにふさわしい文化・芸術の育成に努めました。そのもとに、藩内外から多くの人材が集まりました。中でも藩が後援した表千家の茶道は藩主から庶民まで広がり、下記の陶磁器が焼かれる基盤になりました。

紀州の三大窯

紀州の三大窯を調べてみよう！

		焼き物の特徴等
焼	1801年 享和元年	和歌山城下で青磁を中心に諸国の焼き物の写しを焼いている。
焼	1819年 文政2年	藩主の御庭焼。楽焼や交趾写(こうちうつし)の作品が多い。 ※交趾写：中国南部からベトナム辺りで焼かれた焼き物(交趾焼)の写し
焼	1827年 文政10年	藩の殖産興業に沿って、現在の広川町で稼働した御用窯。染付磁器を量産。

自分で調べたり、博物館で聞いたりしたこと。

スタンプを押してね！